金華山のふもと長良の川瀬に舟浮けて
鵜飼するこそおかしく悲しきはなけれ
月を思はぬ處々に燃しつる篝火をたよ
りに鵜つかひが手繰る絲の幾筋なるを
少しも縺らさで鵜の鳥の進退自在なら
しむるぞ巧みなる己が餌にとあさりつ
る魚を用捨もなう吐出させられつる鳥
の恨みやいかばかりならん

（吉川さはき、旅衣）

50 THE FISHING BOATS WITH CORMORANTS AT NAGARA RIVER, GIFU. 岐阜長良川鵜舟の圖

青々たる楊柳城上に燦々たろ黄金蛍尾
を仰ぐ東海の雄鎮柳營の親藩德川の分
派にして最も大なるは之を推す倘し叛
旗を飜して馬首東を指す者あらば優に
茲に扼するに足る亦是東照公の遠謀深慮

（柳城一瞥）

THE NAGOYA CASTLE, OWARI.

尾張名古屋城

さらば〳〵と行く袖に名殘を留めて今
の世に熱湯のこぼれしその跡を熱田の
鄕とは名づけたり偖こそ尊は熱田の明
神源太夫も神となり億萬刼の末かけて
國を守りの御誓ひ神慮をあふがぬ袖ぞ
なき　（院本、日本武尊吾妻鑑）

52 ATSUTA TEMPLE, OWARI. 尾張熱田神宮

黄瀬川を左にして行けば右に淺間の社

ありけふ箱根の山を越ねてより俄に鄙

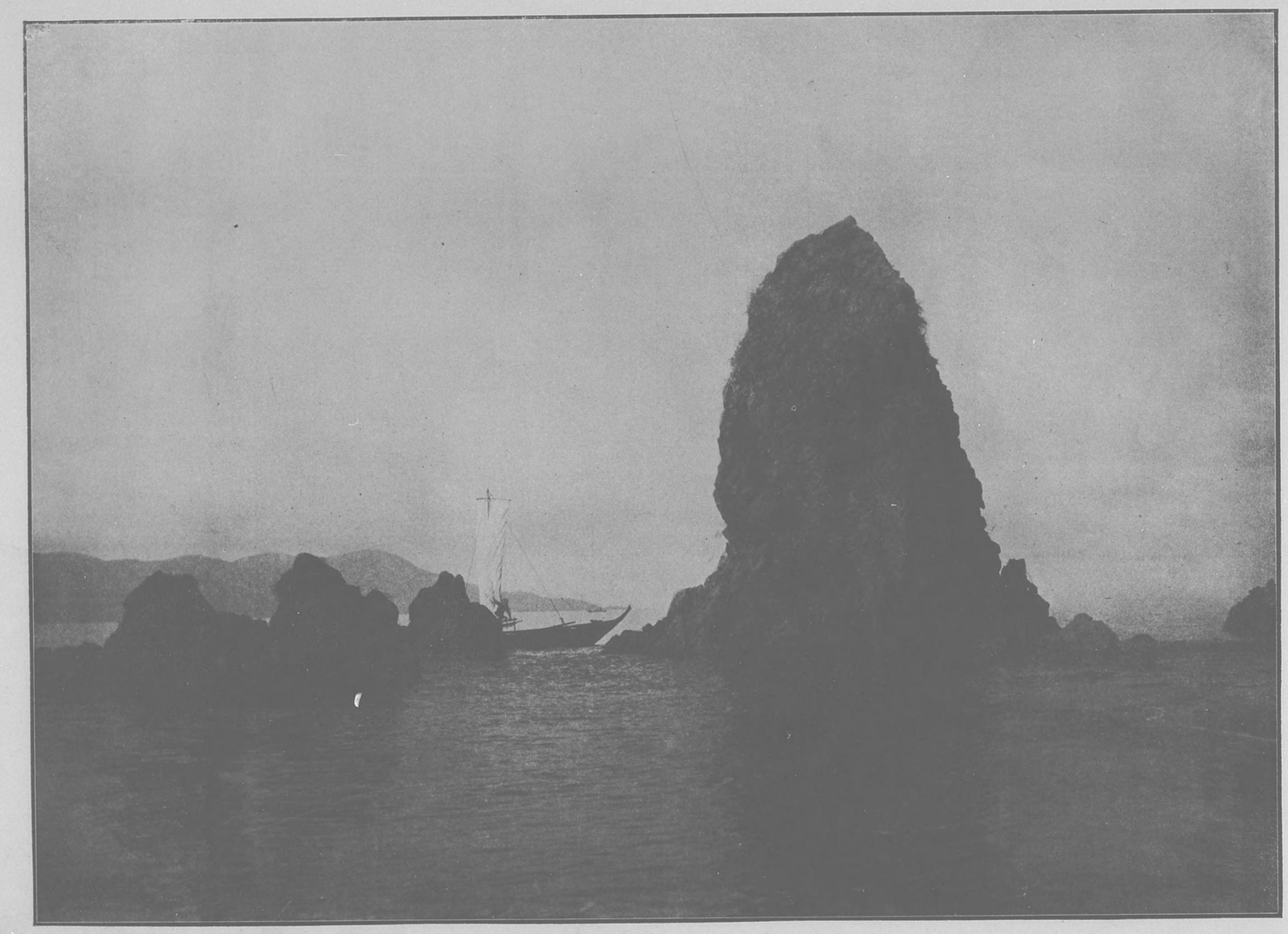
びたる風俗にしてだみたる詞を聞く興

の右なる簾を挑げて初めて富士の雪を

見るあしたか山前に横たはれり道平か

にして昨日の險しきに似ず

（蜀山人、改元紀行）

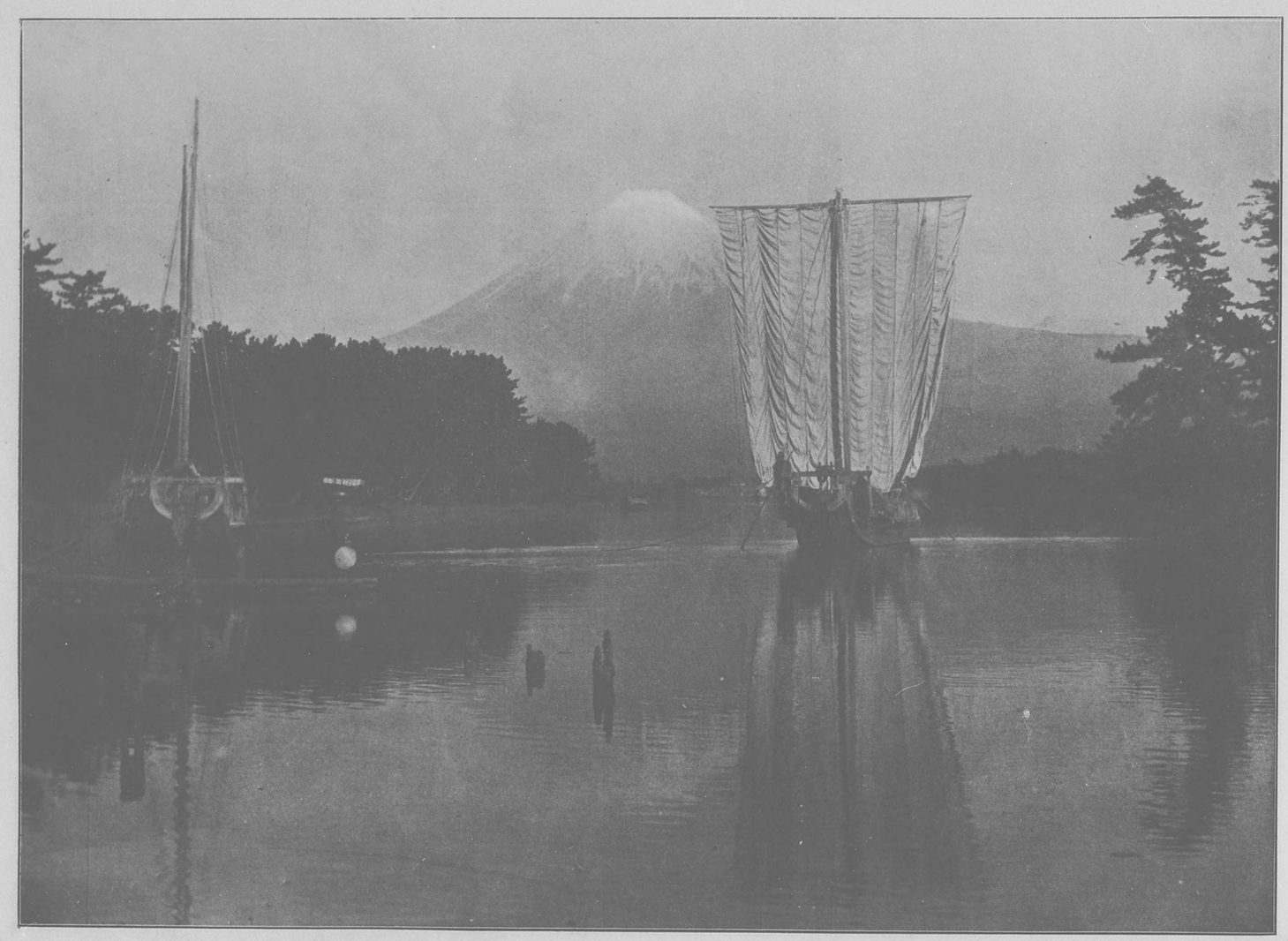


53 SEA-COAST OF HAMAMATSU. 遠江濱松海岸

田子の浦ゆうち出てゝ見れは眞白にそ

不二の高峯に雪はふりける

赤人



54 MT. FUJI FROM TAGONOURA. 田子の浦富士

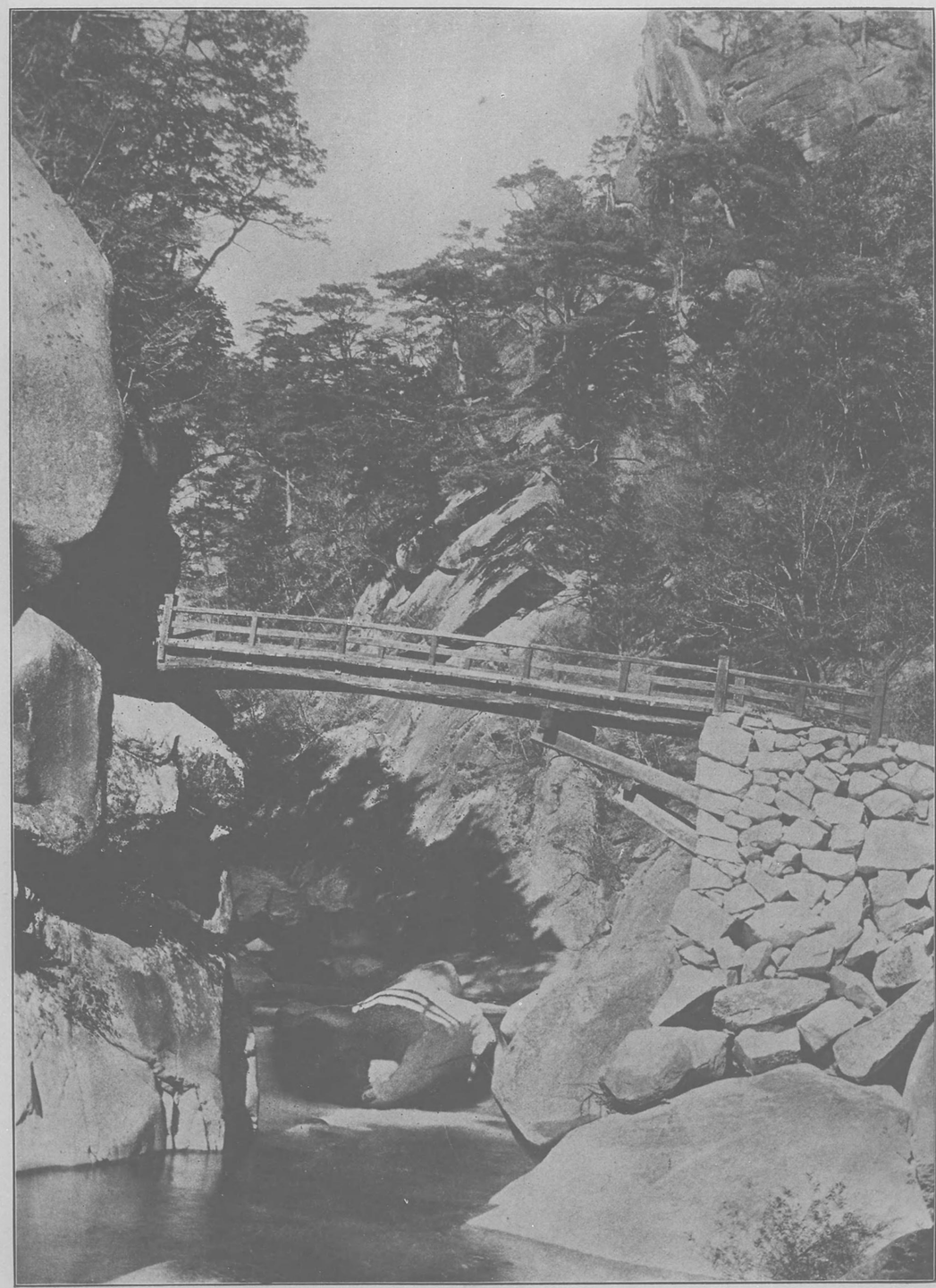
その夜の夜半ばかり富士沼に幾等もあ
りける水鳥どもが何にかは驚きたりけ
ん一度にばつと立ちける羽音の雷大風
などのやうに聞ゑければ平家の兵ども
源氏の大勢の向うたるは昨日齋藤別當
が申しつる樣に甲斐信濃の源氏等富士
の裾野より搦手へ回り候ふらん敵何十
萬かあるやらん取籠められては叶ふま
じ爰をば落ちて尾張河洲俣を防げやと
て取る物も取りあへず我先にくとぞ
落ち行きける

（平家物語）

55 FUJIKAWA, SURUGA. 駿河藤川

山梨の縣は高山四に塞がりて富士の高
根は南に聳ゆその脈を引きたる山々相
連りて境をなし北は長峯御岳の峯々長
く續きて信州にわたり笹子天目は東に
櫛形甘利は西の方に山脈を延べて山よ
り山に重りあへるこそげに峽の名には
負かざりけれ

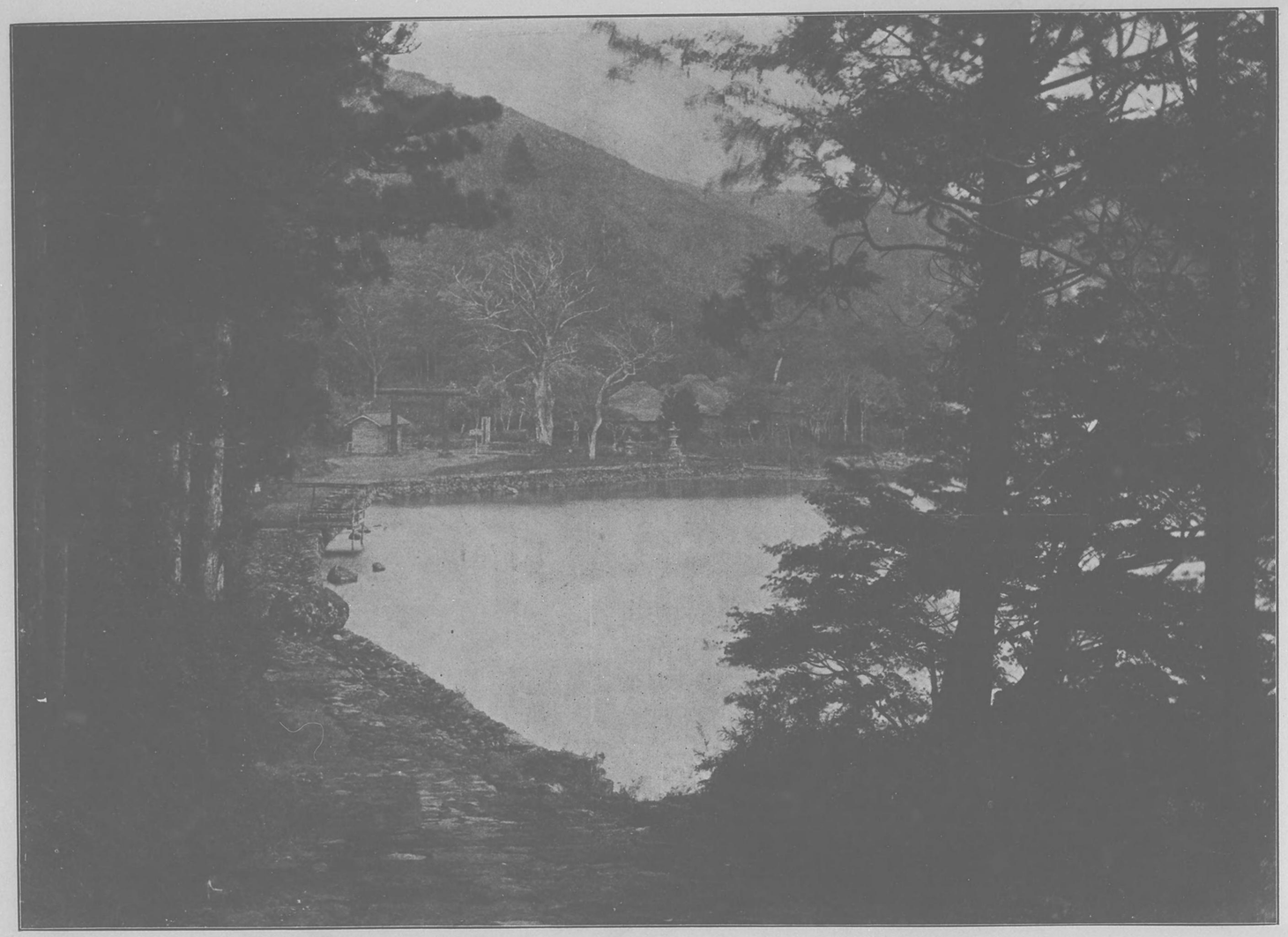
（柏文雄、游峽記）



56 MT. MITAKE, KAI. 甲斐御嶽神橋

一碧萬頃細漪狂瀾時に風勢と共に起る誰か函嶺萬山の中にこの巨浸を湛ふるを圖らん月に湖上に泛べんには神仙の境に入る思ひあらん

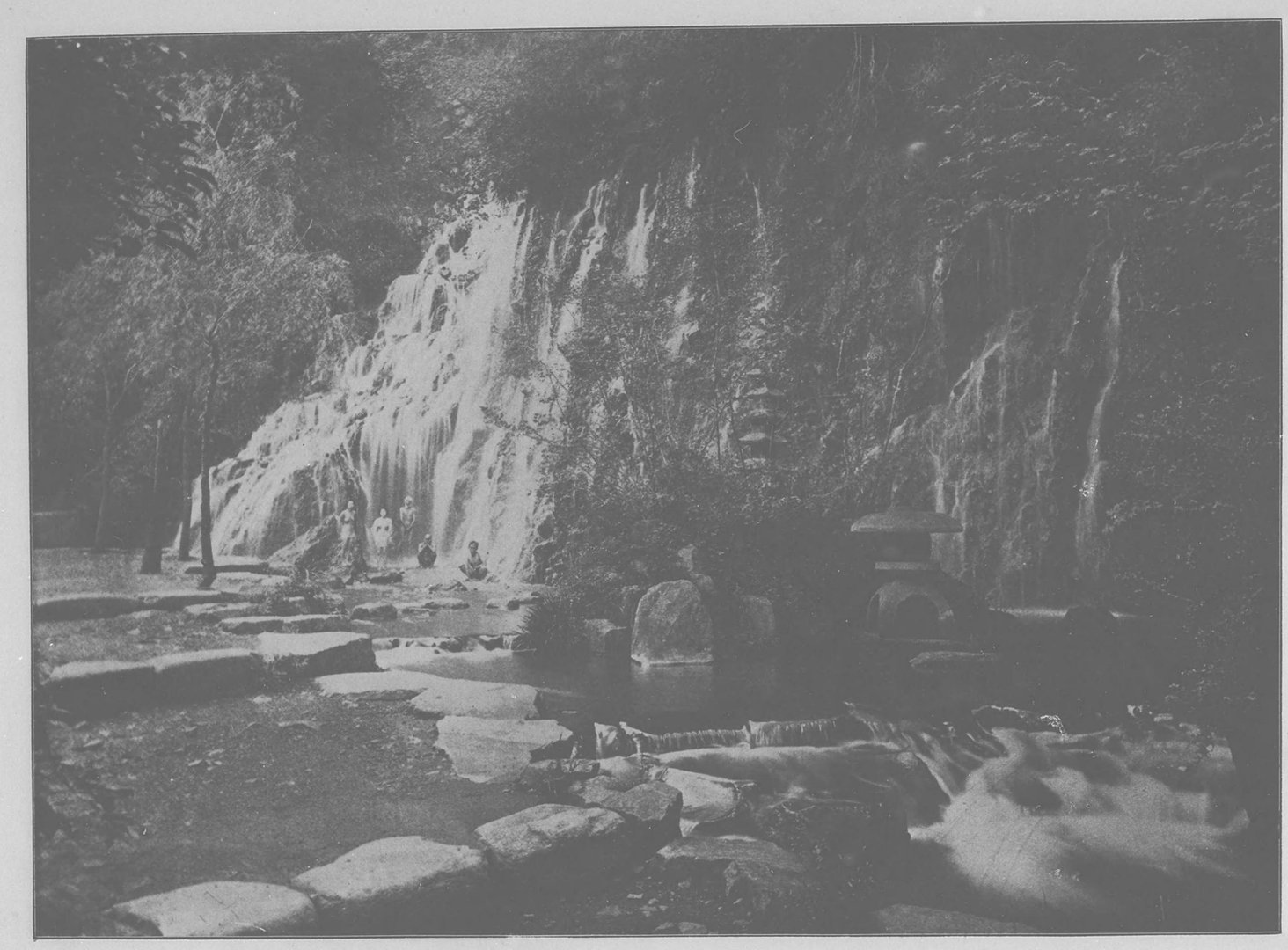
（石田秋泉）



57 LAKE ASHI-NO-KO, HAKONE. 箱根蘆の湖

この湯本は小田原の面十里ば
かり行くところ山巒に水清く
萬代もうごきなき岩根こりし
き千世も葉かへぬ松むら立し
り

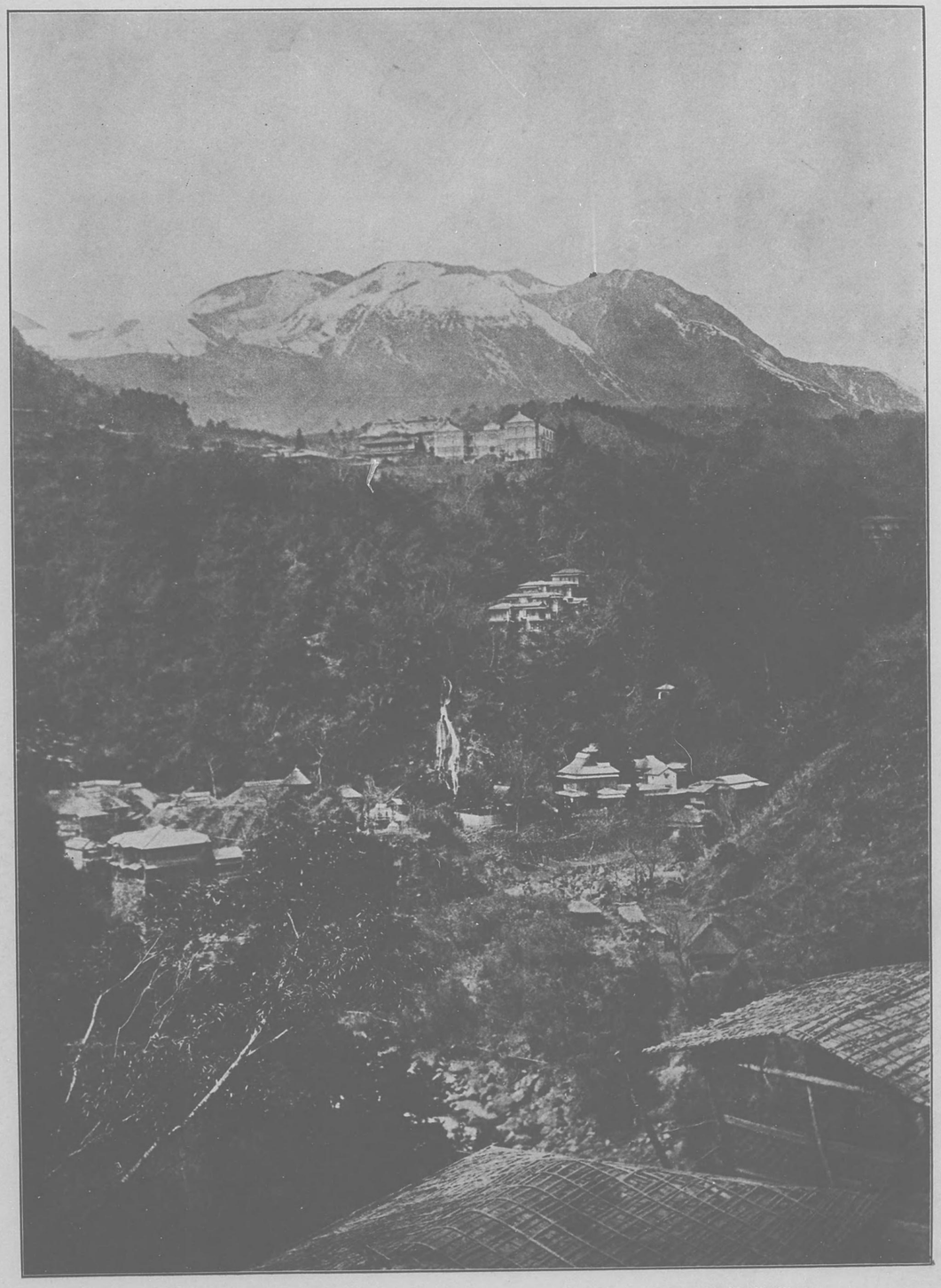
（七松子、箱根温泉記）



59 YUMOTO WATERFALL, HAKONE. 箱根湯本の瀧

玉くしけ箱根の山の
あけぼのにふた聲
なのるほとゝぎす

（平春海）



59 MIYANOSHITA, HAKONE. 相模箱根宮の下

市郭東西幾里間
雙峰斗出海成灣
藥王寺裏暮鐘響
烏帽巖前漁艇還

小野湖山

土人得色豈空然
熱海之名四海傳
英國使臣尤好事
小碑自表浴泉年

60 ATAMI HOT SPRING, IZU. 伊豆熱海温泉

さしてゆく路に跡垂るゝ神の哲も深き海

玉藻よるて ふ貝讃しあり て拾はん袂が

浦いや利の浦吹く風にしなどのかひて

そよ〳〵と渡の舟の心よく嶮波旅波の

靜なる辨財天は女體にてその神德を顯

せり

（硫本、江の島）

61 NISHIURA AT ENOSHIMA, SAGAMI. 相州江の島西浦

名月は南を得たり佛頂珠

國學院大學

62 THE LARGE IMAGE OF BUDDHA, KAMAKURA, SAGAMI. 佛大倉鎌摸相

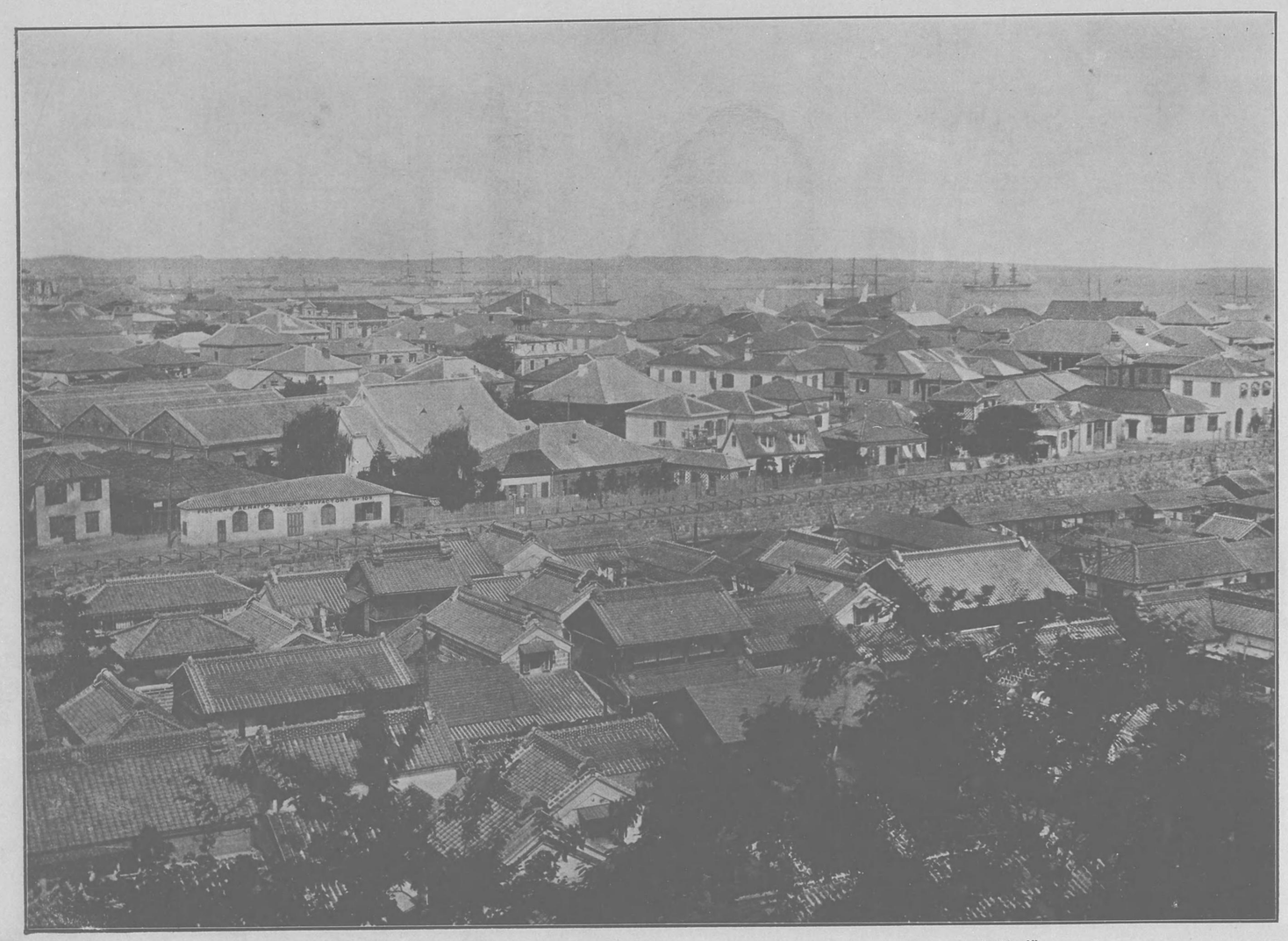
三代の將軍九代の執權春の花咲けば秋
の紅葉を鎭め柳の都もろこしの里鶴が
岡雲井の嵐下の若宮は頼義朝臣の建立
にして上の若宮は源二位の勧請なり宮
柱ふとしき立てゝ瓦の目數ゝをすくら
(詳六、鎌倉の區)

63. LOTUS IN HACHIMAN TEMPLE, KAMAKURA. 鎌倉八幡宮境内蓮池

天女街頭二分月　佛郎館外一枝簫

繁華端合楊州比　十里珠簾十七橋

永阪　石埭



64 YOKOHAMA. 横濱港

善き光寺で月見る今宵かな

宗　　蔵

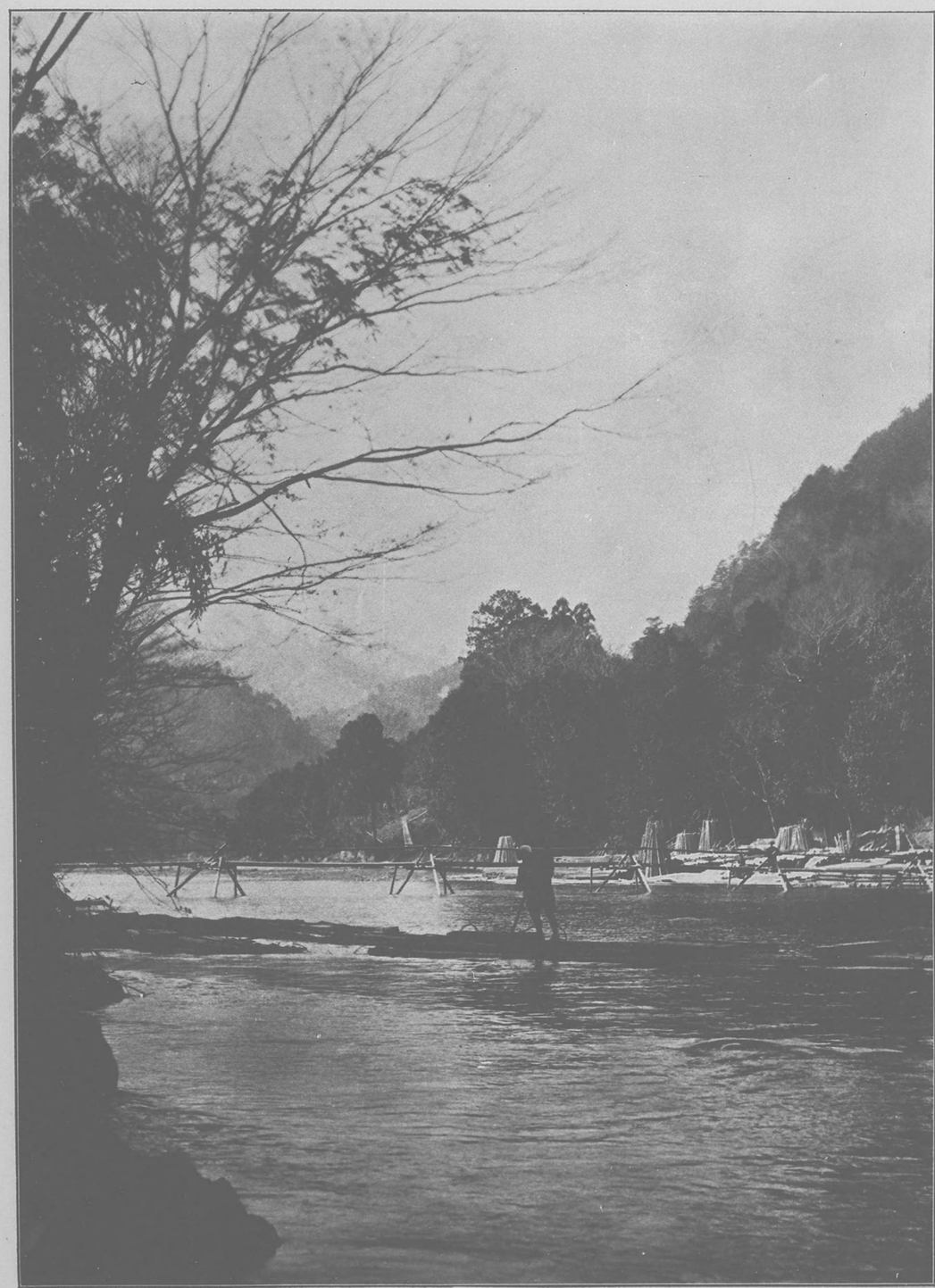
雪國の佛と春の光哉

素　　外

65 ZENKOJI TEMPLE, SHINANO. 信濃善光寺

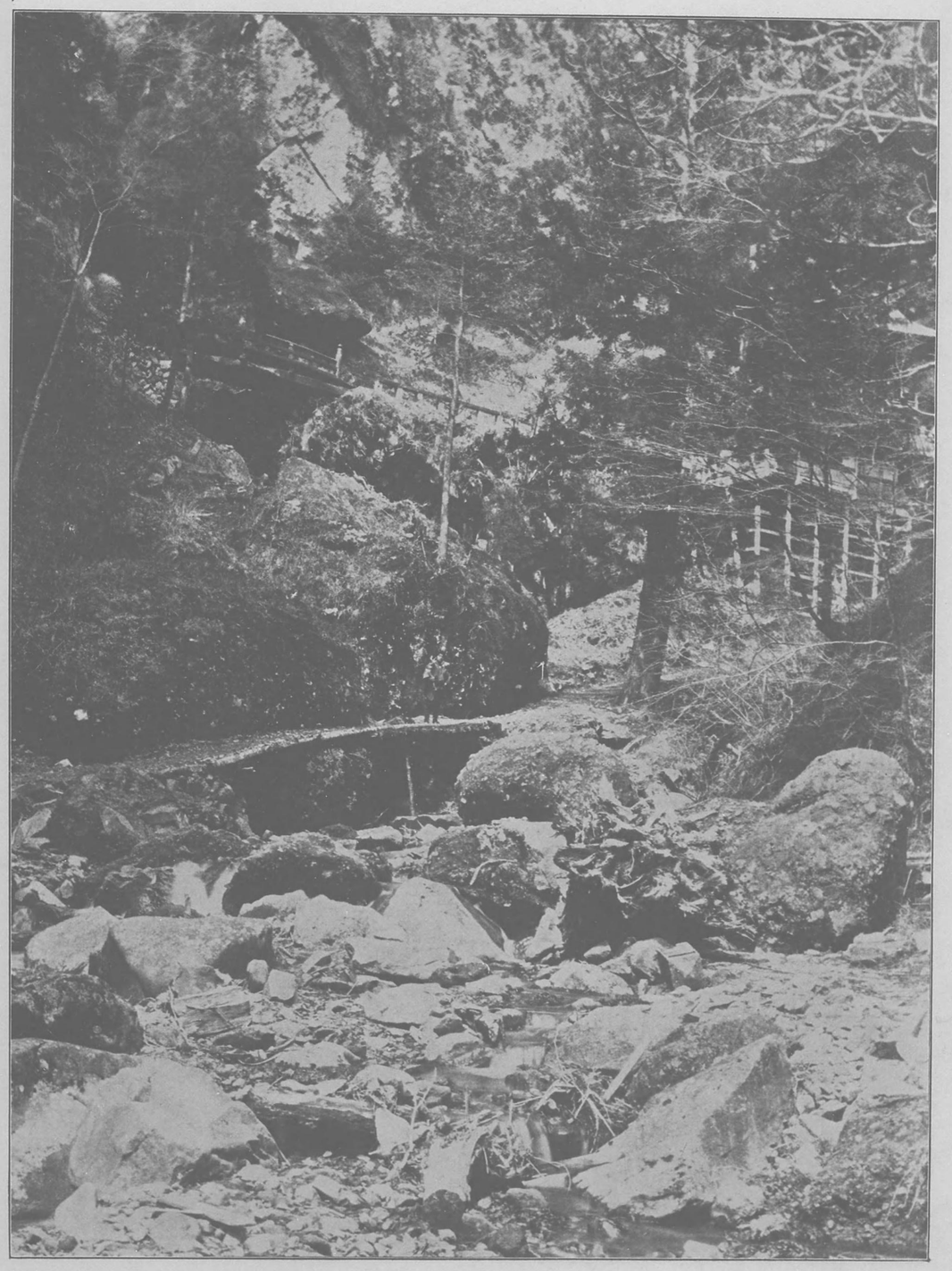
きのふの袖もほしやらで
まだきぬれそふ朝つゆに
涙もひかりを打よせて
さらすや賤の手つくり

（琴曲、玉川）



66 AOME, MUSASHI. 武藏青梅

湖外群峯如堵。
一峯尤秀麗。
山變峯張。又疑夜半有力者。負戴岳蓮移一方。
異奇鳴。肩隨削成千丈鐵。
過眞壁疑叫。快絕。清灣曲清如瓊玦。
茅蕩沒入
(安徽甚奇、登棒名天神嶺)



67 MT. HARUNA, KŌZUKE. 上野榛名山

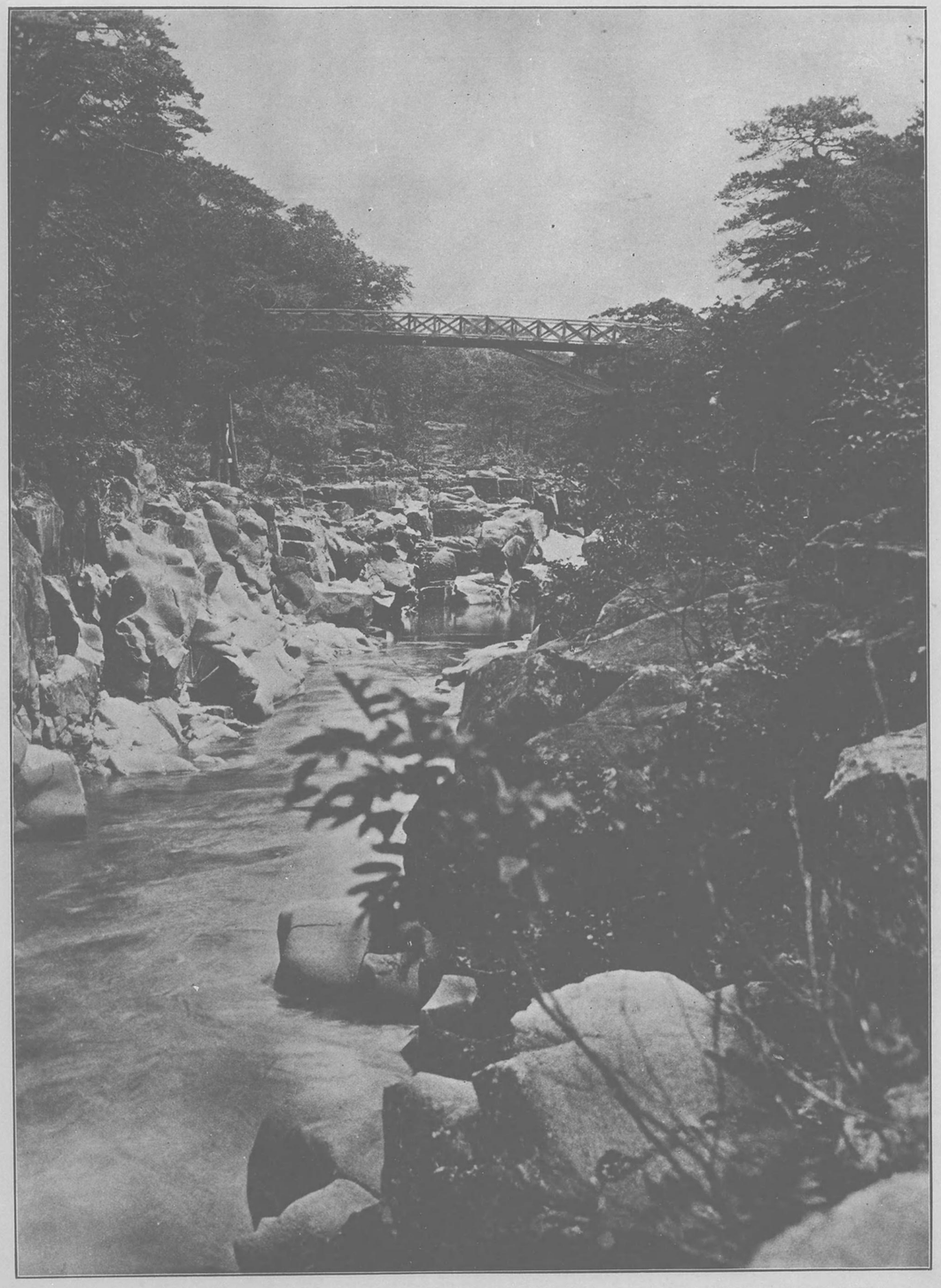
橋下無一柱、從両岸累甎材架趕、上者必出下者外尺許、愈累愈出、以得相近而橋之、減神造也、盧光滑無經鑄、如削立然、上人云、崖腹有窰、神蛇穴焉、歲旱民祭汲舁其窰中、水蛇見則雨、驚問何以得至窰處、乃云、土人生于土、長于水、雖束其手足投橋下、不久、而者皆吐舌、

（物徂徠、厥中紀遊）

68 SARUHASHI BRIDGE, KAI. 甲斐猿橋

雨山對峙して天に挿み溪水縈す急にし
て雪を噴き浪を飜し雨崖壁立の處天工
自ら架せりその際秋樹霜に飽いて色
丹の如く綠蘿點綴して丹壁を相掩映
し樣として圖畫の如し崖に倚つて俯瞰
すれば頓に長途の勞を忘らるべし

（石里禾水、遊遊日記）



69 ITSUKUSHIDANI, ICHINOSEKI, RIKUCHU. 陸中一の關附近嚴美溪天工橋

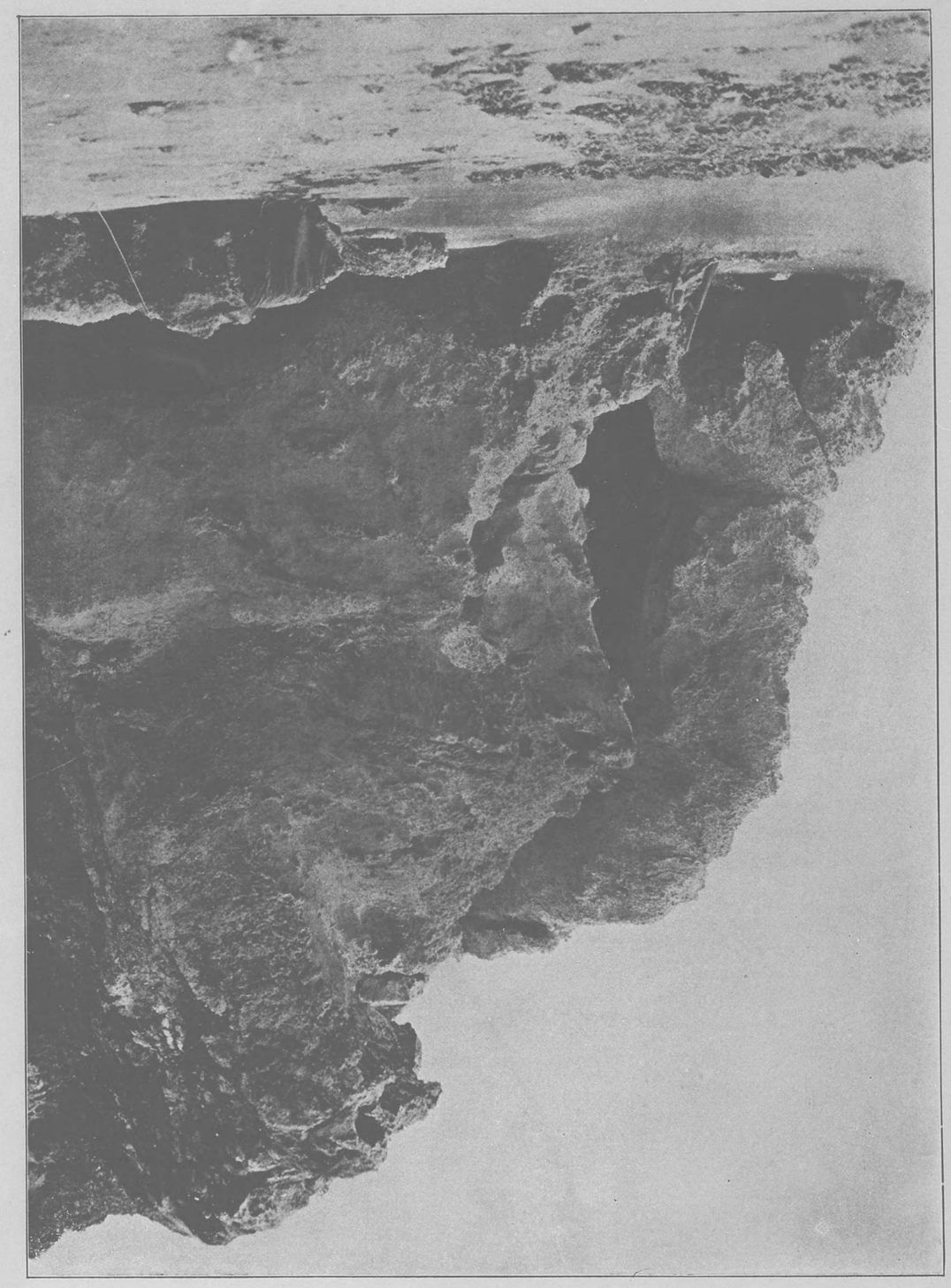
五月十七日午後九時函館港に達す　此夜
天朗にして繁星輝き放ち風波くして寒暑
人肌に適ふ港中勢々たる燈火は數百の樹
影を照し山下の市街軒窓の燈火は雲退に
撥して星光却て光を失ふ景趣幽雅物外神
遊の思をなさしむ須臾にして港岸に著す

（林顕三〻北海紀行）

48 HAKODATE HARBOUR, HOKKAIDO. 渡島函館港

三面山に圍まれて灣内水深く風恬かに一
二の巨艦は泊せしむべし膽振第一の佳港
たゞたゝへられて函館より札幌に赴く要路
たり一帶の人家は山下に棉比鱗次し札幌
に達する幹路は敷かれてあり王化のあま
ねきかゝる北海の濱にまで人煙の稠く な
れるゞいとゞめでたき御代なりける

（麥川氏、北遊錄）



71 SEA-COAST OF MURORAN, HOKKAIDO. 室蘭海岸

師直にはあらず上山六左衛門が首なり

と申しければ楠大に腹立してその首を

投げて上山六左衛門と見るは僻目か汝

は日本一の剛の者かな我が君の御爲に

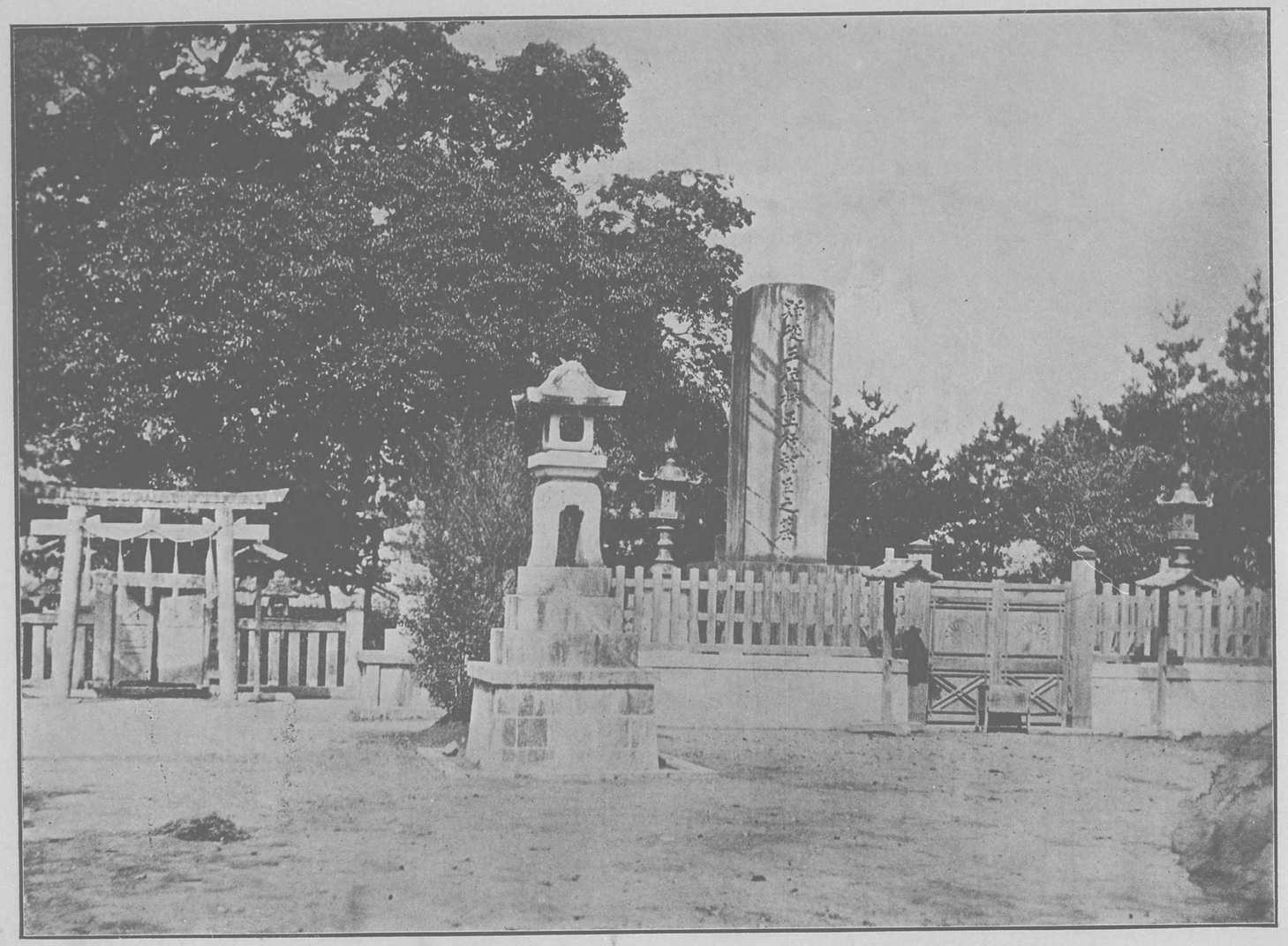
無雙の朝敵なり去りながら餘りに剛に

見ゆるが優しさに自餘の首どもには

混ずまじきぞとて着たる小袖の片袖を

引き切りて此首を押しつゝみて岸の上

にぞ捨てしおきたる　（太平記）



MASATSURA'S TOMB, KAWACHI.

河内四條畷小楠公墳墓

東川西川日閑行　詩客酒徒爭結盟
若比放翁詩句裏　金城便是錦官城
詩佛老人

73 KANASAWA PARK, KAGA. 加賀金澤公園

昔なら
けり
の御門につかうまつる采女あり
に經まとさ心ちしければ密かに出でて世
猿澤の池に身を投げてけりかく捉げつ
れこそ御門はいとうし召さゞりけるを
事の序ありて人の奏しければ聞しめし
て池の
はとりにかはむみ幸し給ひて人々に歌
よませたまふ
わきもこが寢くたれ髪を猿澤の
池の玉藻と見らさかなしき
柿本人丸
（大和物語）

74 SARUSAWA-POND IN NARA PARK. 奈良猿澤の池

春の日を名におふ神そたのもしき

こゝろのやみのとつる岩戸も

契　沖

71 KASUGA TEMPLE, NARA. 大和奈良春日神社

君のみや波みてしらむ

石清水きよき

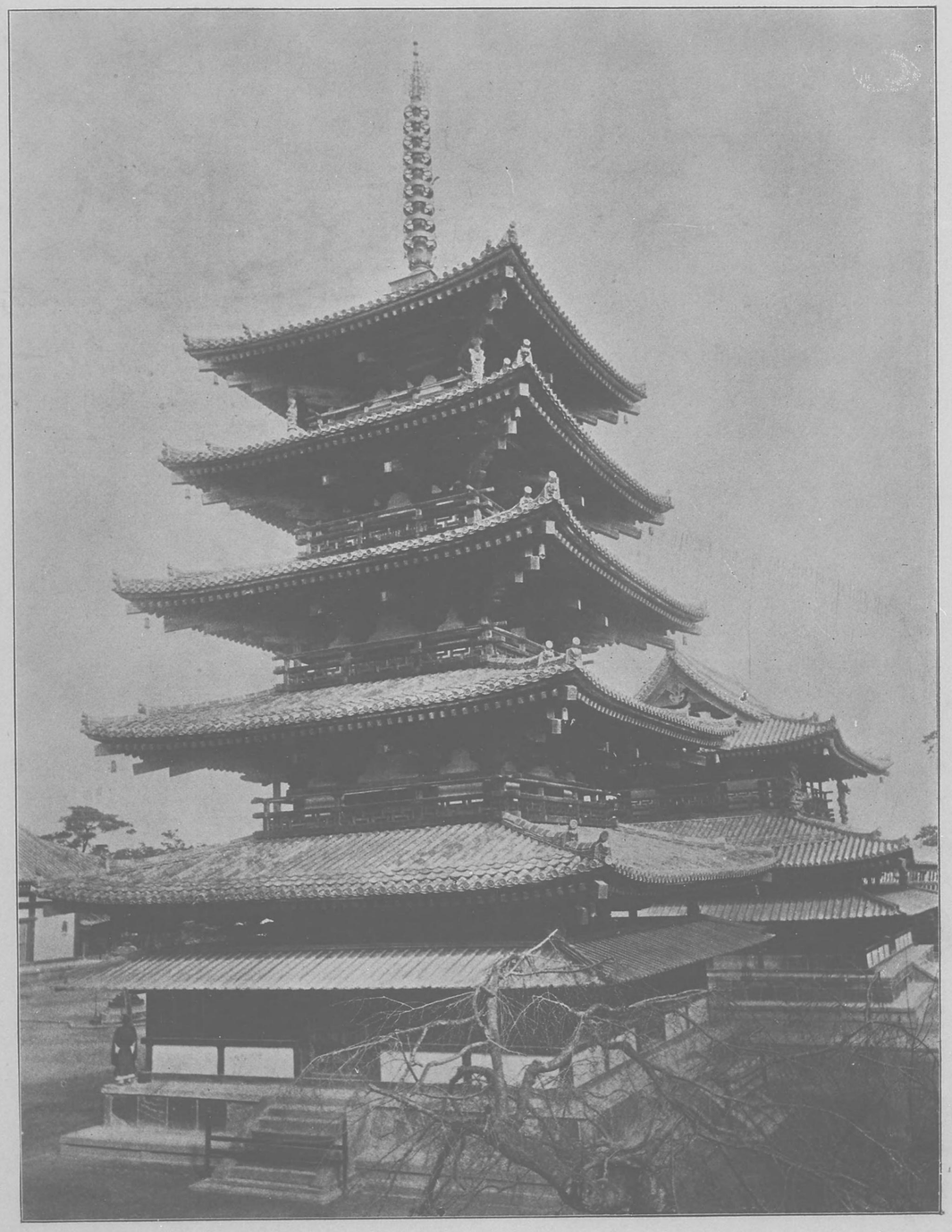
ながれの千代の行末

入道内大臣　源道成

HAGHIMANGU TEMPLE, YAMASHIRO.

山城男山八幡宮

天半巍然古梵城
想看太子大經營
園　如菊
老松風起秋蕭颯
猶做一千年外聲



76 HORIUJI TEMPLE, YAMATO. 大和法隆寺

騰大政大臣正一位藤原朝臣鎌足公の祠

廟は正殿の東に在り、抑々談山は中大兄

皇子と中臣の鎌子連と心をあはせて鞍

作を誅伐して平天下なりしあんぢ奇計

を運らし皇子をゐて城の東倉橋山の峯

作を誅伐して平天下なりしあんぢ奇計

を談ひ給へば皇子いと駭びましく て藤

若し我天位に昇らば汝が姓を更めて藤

原とせんとぞ宜ふその談ひし所次れば

かたらひの峯とぞ名づけ給ひけり

（和順漫記）

78 TōNOMINE TEMPLE, YAMATO. 大和多武峯談山神社全景

佐河田昌俊

ぶらしなくあきなの
のこる
へまもなく
はるの
しょ
ふ
の
はれ
ゆ
こ
ろ
ん
こ
ろ
ん
こ
ろ
ん

YOSHINO, YAMATO.

大和吉野

赤穂の士村上某が父の仇を討ちし處を

る阪の旁に老樹の作樂花今を盛りと咲

き亂れて登り行きつゝ振り返へり見れ

ば苑ら殘んの雪の谷間を埋みたらんが

如し剩へ見ようは松椿の老いたるか枝

を交へて日かげ漏さず漸らに登り澁き

ぬれば平地の廣やかなるがあり是なん

金剛峯寺の境内にして六十七萬五千坪

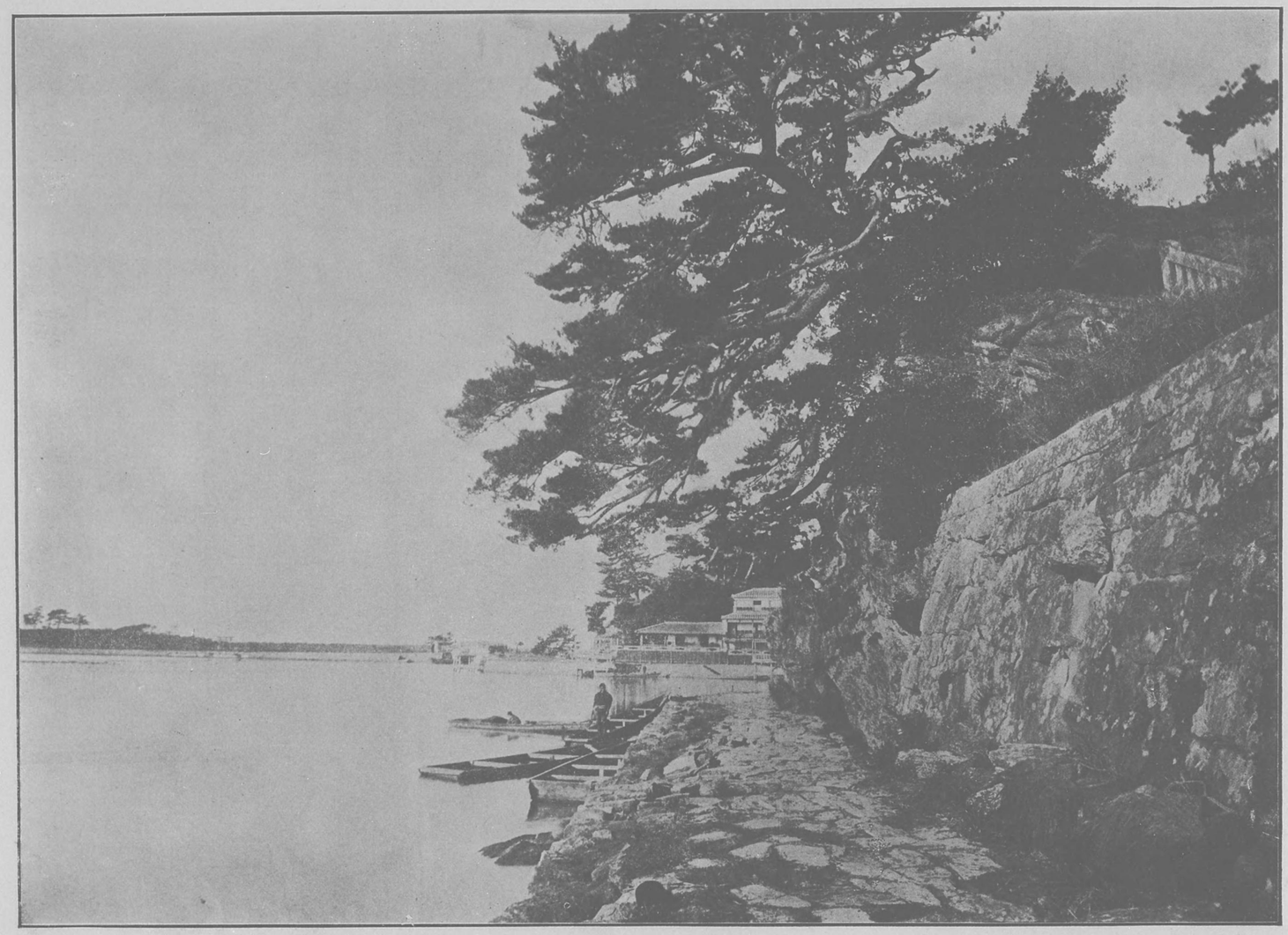
もあり之聞ねしげに海内に二ツさ大寺

にして切天地をなせるこそいみじけれ

（石里明、高野まうで）

80 KONDO TEMPLE, KŌYA, KII. 紀伊高野山金堂

紀の海や沖つ波間の雲晴れて行きかふ
舟や泊りぶねかゝる渚の眞砂に夏も霜
おく月の光やはらぐ玉津島浮世の塵に
まじりても涼しき神の御心にめで玉ひ
ける浦涙のよせくる方に友鶴の蘆邊を
さして鳴きわたり夜はすがらに音をな
きて明石も須磨も外ならぬかはなぐさ
山名草の濱浦の初島ながめやり古き御
幸も思出の和歌のうら松ちりもせず名
も面白き片をなみ　（小唄、わかの浦）



31 WAKANOURA, KII. 紀伊和歌の浦

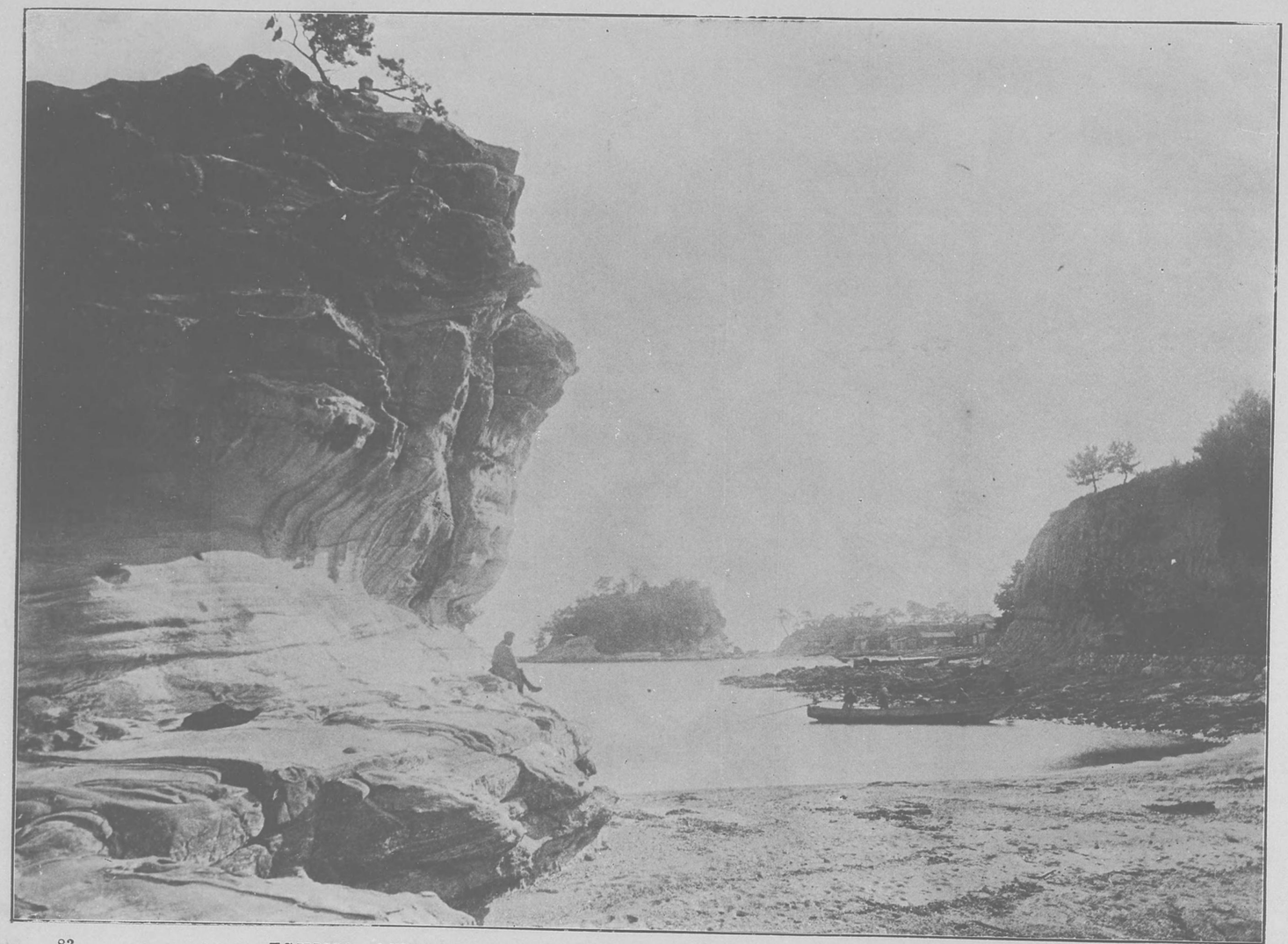
天下風濤の險を語るもの必ず先づ指を阿波の鳴門に屈す鳴門の海は暗礁廉利盤渦輪旋にして能くその深淺を測るものなし是を以て潮汐の進退盈縮する毎に邦拜堂苔として萬馬を驅り百雷を鬪はすが如し凡そ風帆涙舶之を過れば掀翻下上し惟に疾風の枯葉を捲くのみならず舟師一たびその針路を謬らば輙ち梔摧け楫折れ全船覆沒せんその窮險極阻遙にして之を望むとも未だ嘗て寒心破膽疾呼して狂走せずんばあらざるなり

（菊池三溪）

82 NARUTO, AWA. 阿波の鳴門

藤原重綱

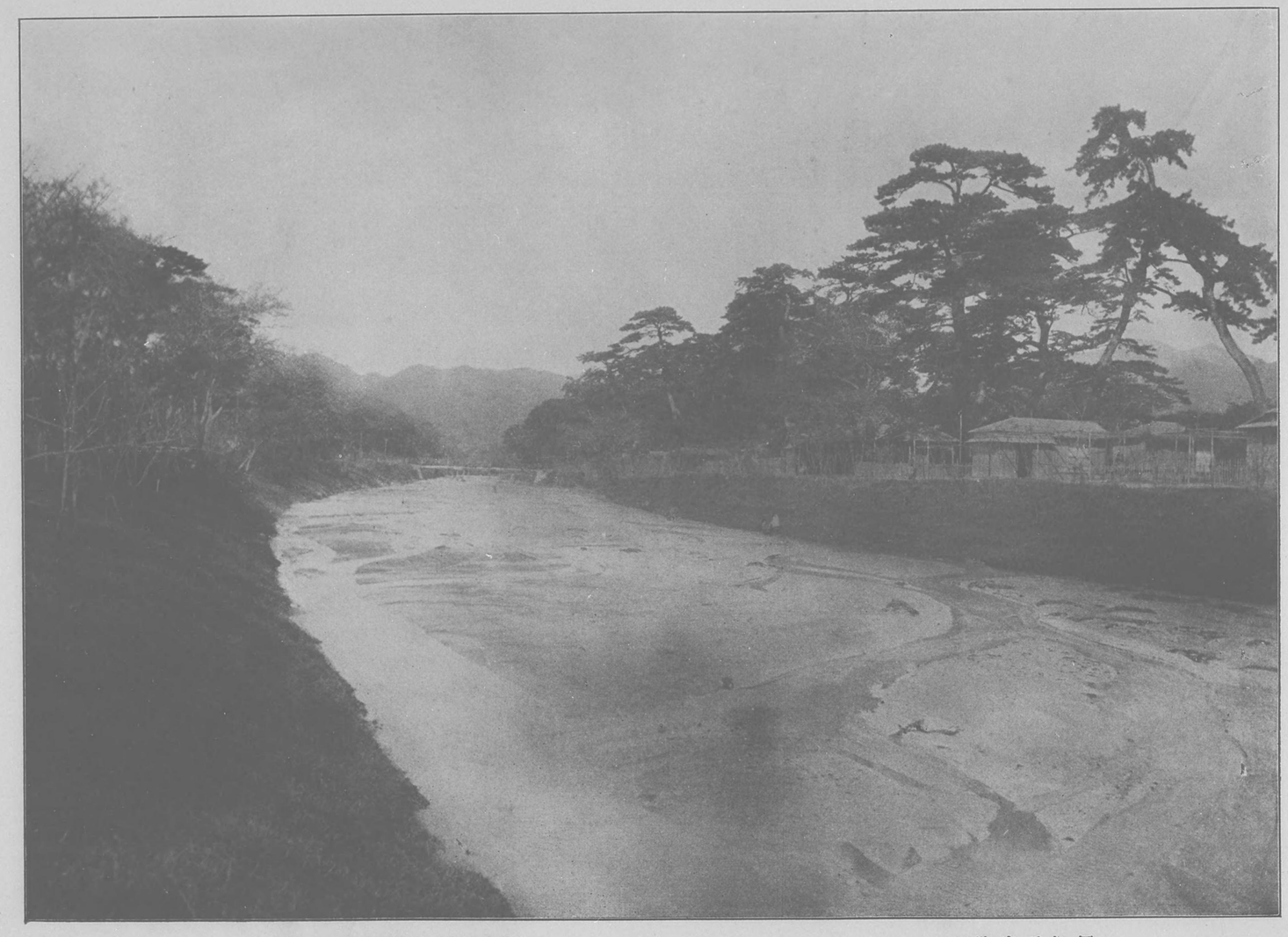
春霞繪島の崎をこめつれは
なみのかくとも見ぬ今朝哉



83 ESHIMA, AWAJI. 淡路繪島

正成は正季に謂うて曰く軍勢斷てり我其れ死なん先づ前軍を却けて後敵を擊たんと乃ち直義の陣に赴き左右馳突す敵皆披走し直義殆んど危し尊氏本軍の諸將をして拯はしめ急に我が後を擊つ正成又回り戰ふこと十六接躬に十餘創を被り兵も半殲きぬ走りて民舍に入り自盡せんとす正季に謂うて曰く弟死せば九界の中何くにか生を托せんと正季莞爾として曰く惟願くば七たび人間に生れて以て賊を滅さんのみと正成忻然卽ち交刺して死しぬ

（南山史）



84 MINATOGAWA, HIOGO. 攝津兵庫湊川

壁頂より瀉下し四縁の掣曳せるが如し此
その名を得る所以なり但邱上平臨甚だ奇
觀ならず乃ち巖角を躡み降りて瀑底に就
き仰觀すれば壁面に石ありて突出し瀑下
垂せり石に至りて輙ち怒り駭珠驚玉餘沫
霏散し空に漲りて下り驟雨の至るが如く
衣巾盡く濕ひぬ

（齋藤鐵研、觀曳布瀑游摩耶山記）

85 NUNOBIKI WATERFALL, KOBE. 神戸布引の瀧

湯長女の袂は蘭のしをりかな　三千風

誰も見にめぐれ有馬のやま櫻　忠綱

86 GENERAL VIEW OF ARIMA HOT SPRING, SETTSU. 攝津有馬温泉塲

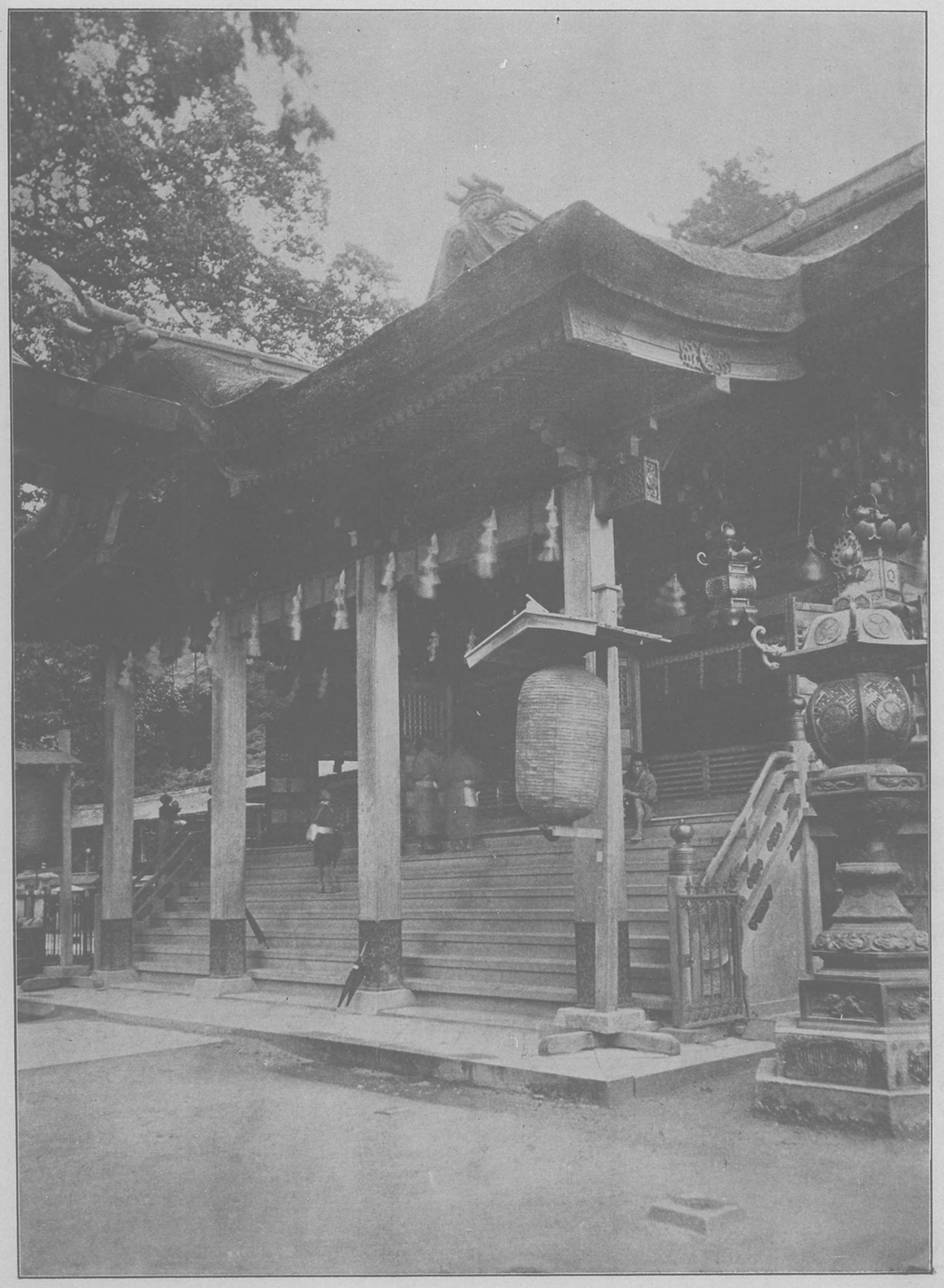
岸に數簇の人家あり人家松林或は斷か或は續けり村名を詳にせず晨飡して舞兒の濱を過ぐ白砂青松中に根露交なるものあり描寫分明海に面して茶店あり人の遊賞する所なりその名づくる所俗説附會笑ふべし

（細合半齋、小西游草）

87 MAIKO BEACH, HARIMA. 濱の子舞摩播

香火南州第一場　威靈不獨遍扶桑
漢兒亦禱風濤穩　金榜高懸輝夕陽

村上　佛山



88 KONPIRA TEMPLE, SANUKI. 讃岐金刀比羅神社

某の邸某の水いづれか先君の遺愛ならぬ
はなく塔影橋姿孤亭片石いまそかりし世
をしぬぶ種とこそ見れ花に醉ひ月に嘯き
たまひし御すさびも黄粱一炊の夢なりけ
り

（きびの屋、懐琴錄）

89 KŌRAKUEN PARK, OKAYAMA, BIZEN. 備前岡山後樂園

九月十三夜いつく島へまゐりけるに備後の鞆といふところにて海邊月といふ事を

藤原　公重

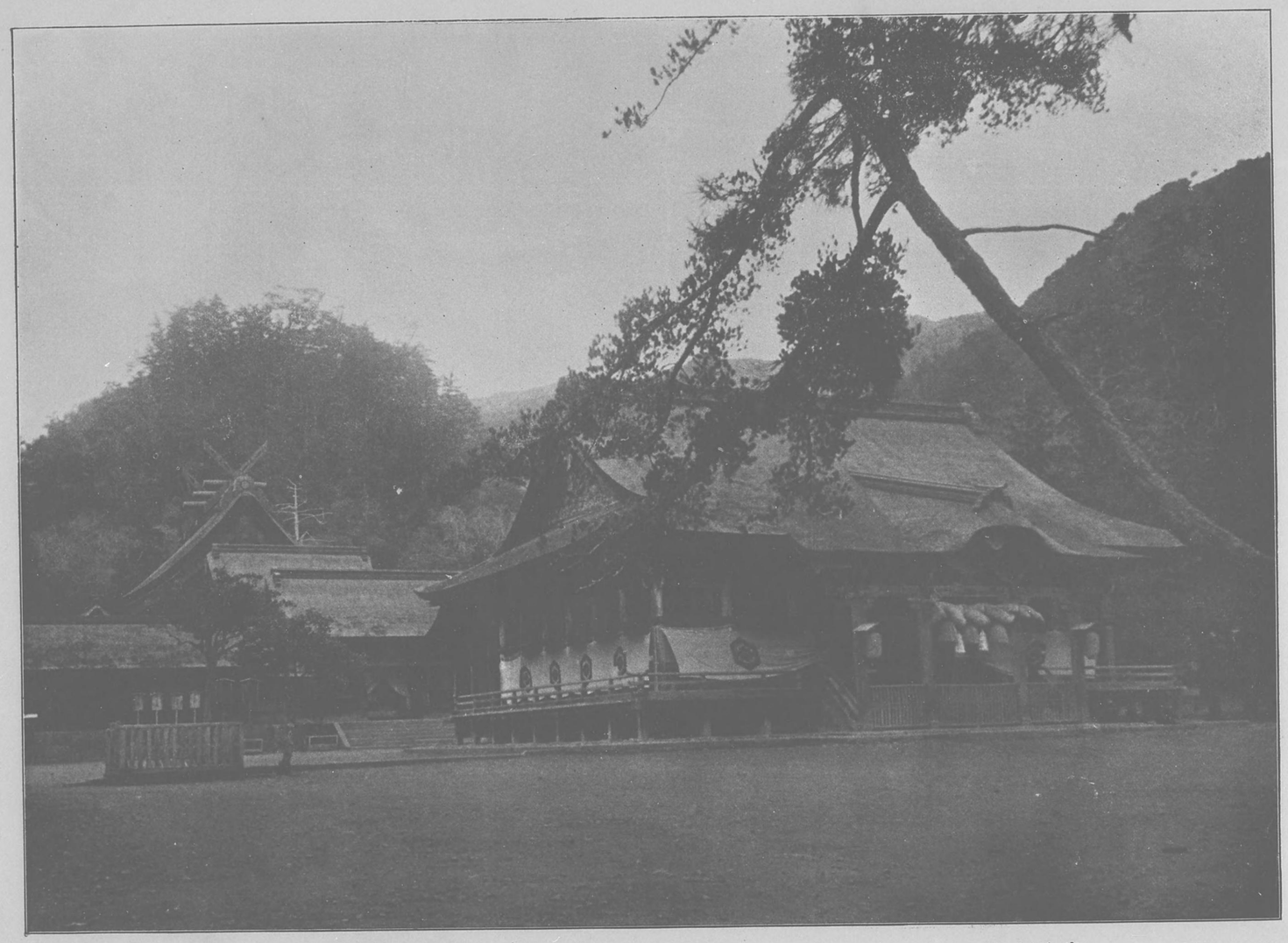
あたら夜の月を獨りそ詠めつる
おもはぬいそに浪まくらして

（風雅集）

90 TOMONOTSU, BINGO. 備後鞆の津

華表に入れば地稍隆し銅華表ありて銘辭を鐫せり之に入れば拜殿あり地益隆し四脚門ありその左右に廻廊あり繚するに瑞籬を以てせり脚門の後に樓門ありその後は本社たり極めて高壯にして葺くに板を以てして瓦を以てせず乃ち大己貴命を祀れり官幣大社たり古は社殿の高さ三十一丈是その大社と稱する所以なるか今は則ち減じて八丈となれり他の神社に比すれば尙崇高たり

（大八洲游記）



91 ŌYASHIRO, IZUMO. 出雲大社

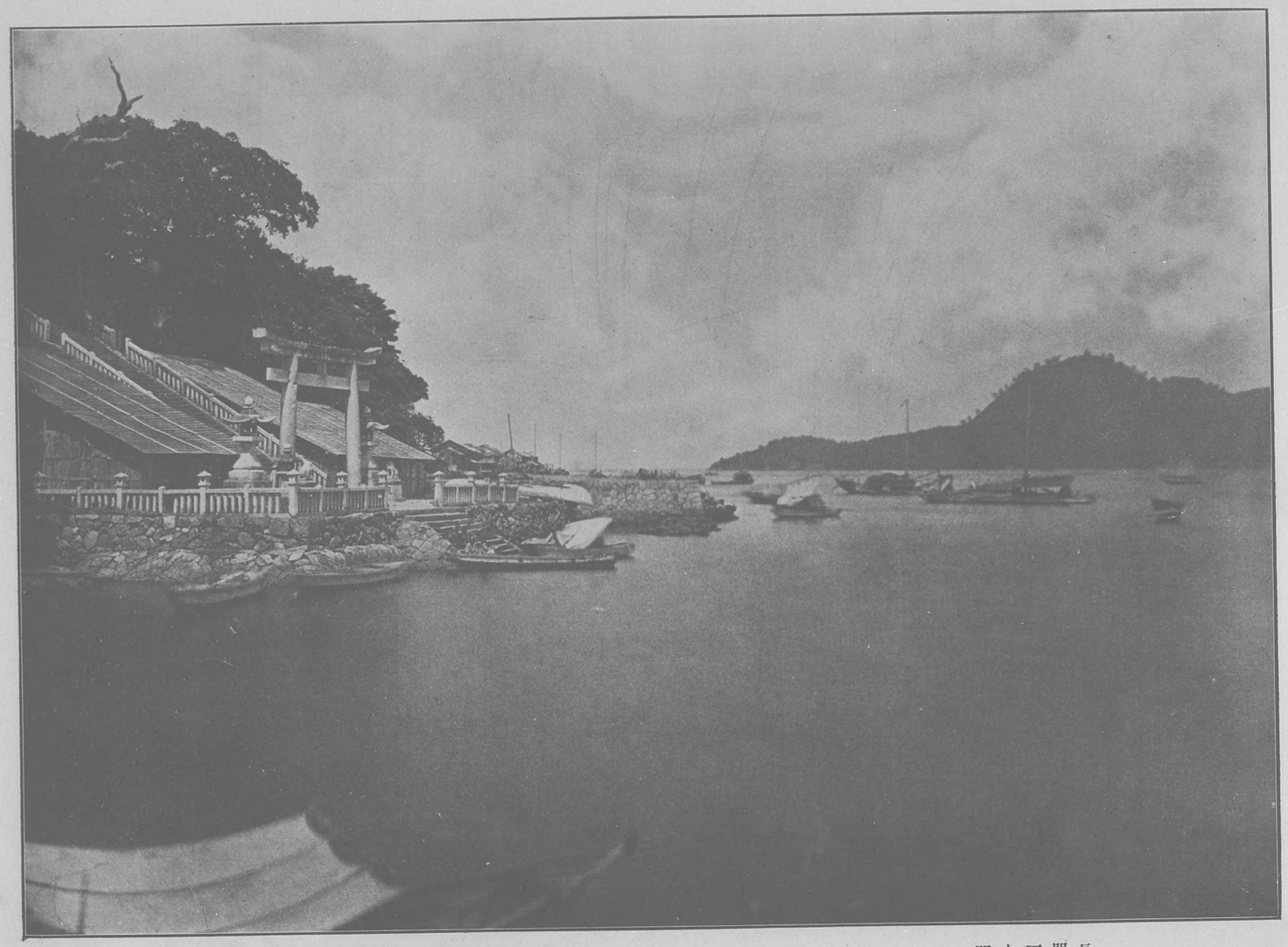
雨散蓬窓島嶼遙　枕蔆有響午生潮
倘教風水如儂意　直到防州錦帶橋

菅茶山

92 KINTAI-BRIDGE, IWAKUNI, SUō. 橋帶錦國岩防周

青山水を隔てゝ横列せるは豐前なりその際百歩許以て喚ぶべし肆戸鱗次して水を環れるは赤馬關なり賈舶數百檣を比べて林の如し是の地北海と南海とを扼して迫りて一門を開く潮に應じて西するものあり風を得て東するものあり風に阻てられて泊する者あり來往淹速相磨し終日囂然たり凡て天下の漕利此港を以て最となせり

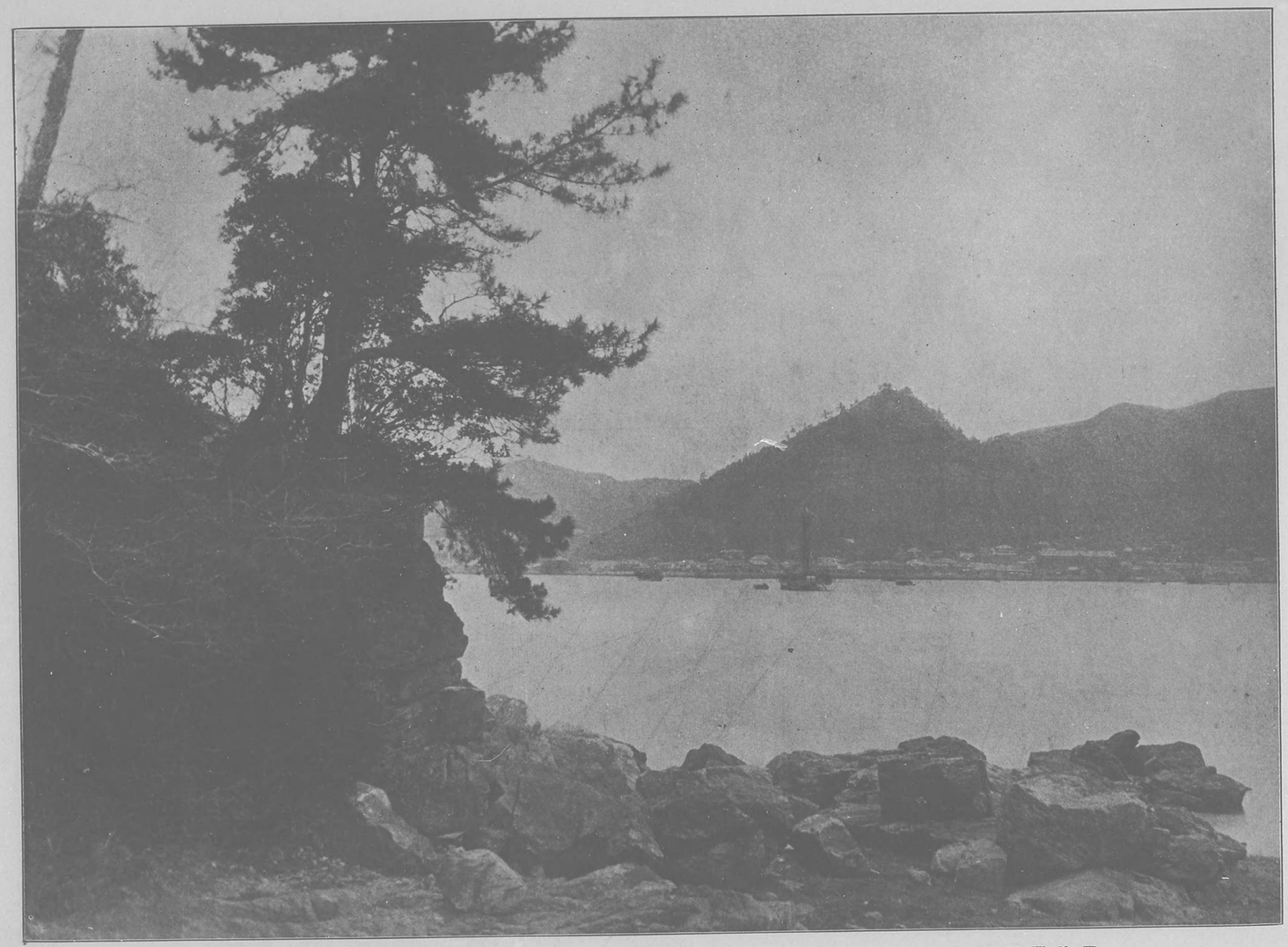
（新宮涼庭、西遊日記）



93 SHIMONOSEKI, NAGATO. 長門下之關

春秋の雲井の雁もとゝまらす
誰か玉章のもしの關もり

入道前太政大臣



94 MOJI HARBOUR, BUJEN. 豐前門司港

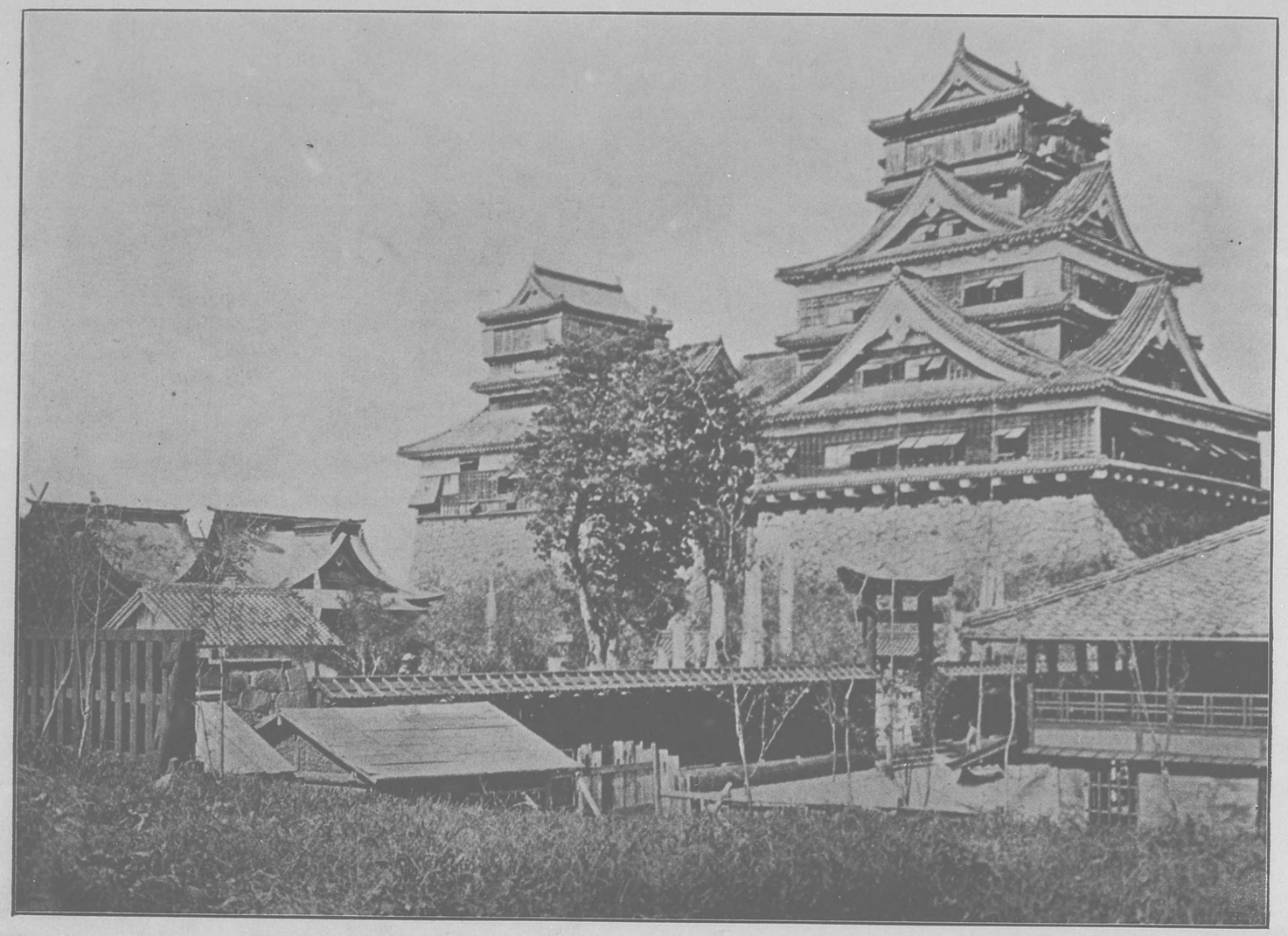
五皷菅廟に詣でぬ銅華表に入るに天未だ
白けず巨樹森々として月影下に徹し氣象
嚴肅露光人に迫る廟前の樓閣翬飛輪奐皆
壯麗を極めたり蓋し沿道祠廟の冠冕なり

（新宮凉庭、太宰府菅廟）

95 DAZAIFU TEMPLE, CHIKUZEN. 筑前太宰府天滿宮

熊本城中作　谷隈山

熊城元是好區寰
焦土蕭條人未還
若使藤肥州尙在
不教賊度太郎山



96 KUMAMOTOJYO, HIGO. 肥後熊本城

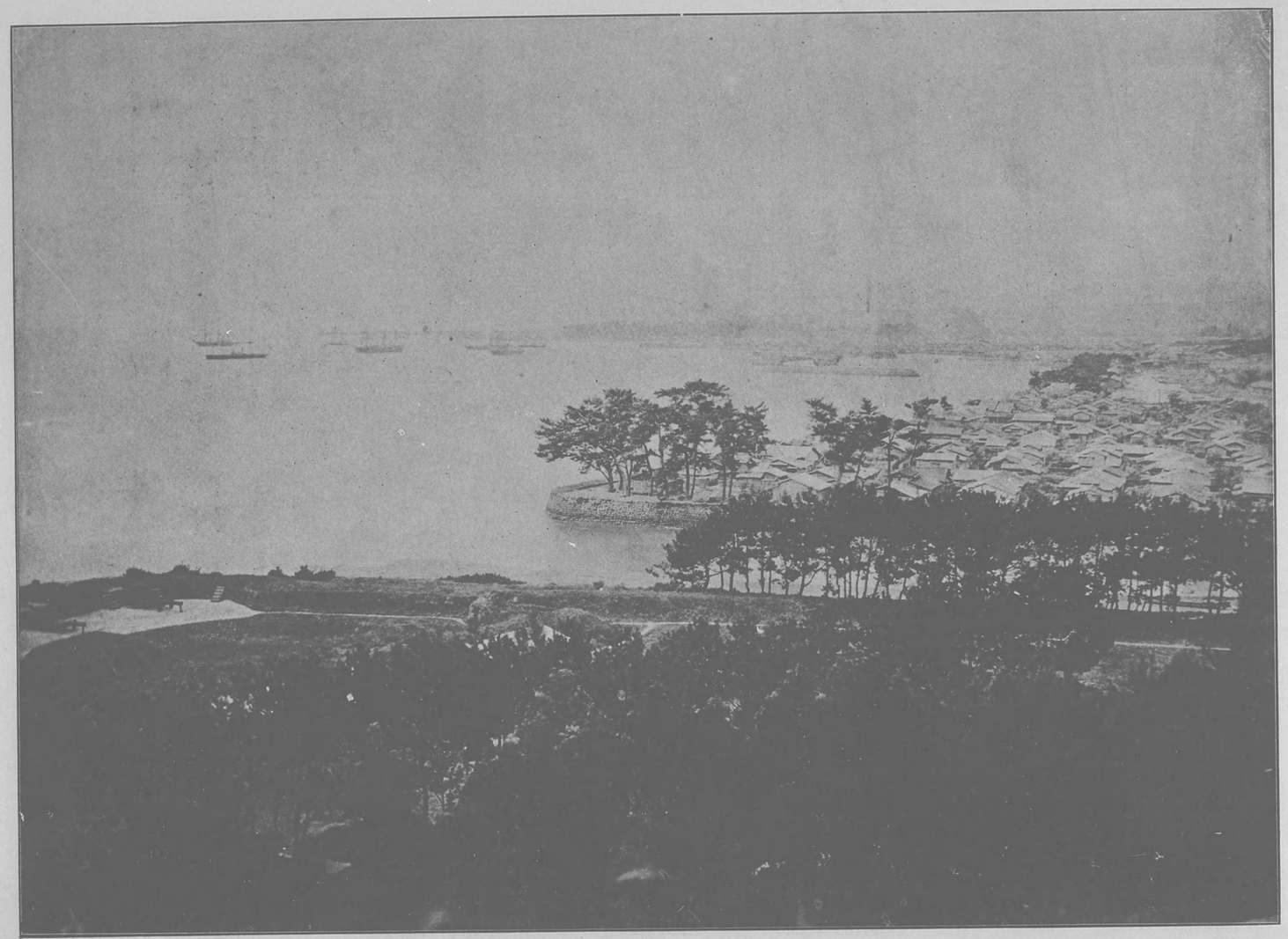
昔より今にわたり來る黑舟緣がつくればふかの餌となるさんたまりや

（小唄端手組、長崎）

欠

本縣は東京を距ること三百八十九里是を我が邦の極西となす舊薩侯の故城は縣廳の東北谷山下にあゲ城址壯大ならず疊むに石を以てし隍池之を繞れり薩侯の先源大將の時始めて本州の守護となり此土に據りて七百年幕府と相終始せり

（大八洲遊記）



KAGOSHIMA HARBOUR, SATSUMA.

薩摩鹿兒島港

勞之辨

釀蜜波羅摘露香
傾來椰酒白於漿
相逢岐路無他贈
手捧檳榔勸客嘗

（臺灣府志）

99 BULWARK AT TAIPEI, FORMOSA. 臺灣臺北城壁